



2



3



1



4

縄文夏まつり in チカホ

2020年8月1日~4日

1. 子どもから大人まで幅広い世代の方々にご来場頂きました
2. 無料配布のボックスティッシュは大好評
3. 「おうちで縄文ワークショップ」の様子
4. プロジェクションマッピングでは、ポップな土偶たちに出会えました

「縄文夏まつり」大盛況!

今回で6度目の開催となった、縄文夏まつり。今年は、「縄文人の顔」をテーマに道内外から7点の土偶・土面が集合しました。新型コロナウイルス感染症対策として、例年大好評をいただいていたセミナー、ワークショップは中止となりましたが、それでもほぼ例年通りの約8000名の来場者にお越しいただき、多くの方々に北海道の縄文文化の魅力発信できた4日間でした。中止となったワークショップに代わり、札幌国際大学縄文世界遺産研究室、北海道埋蔵文化財センターのご協力により行った「おうちで縄文ワークショップ」では、岩偶づくりセット、砂絵体験セットの無料配布を実施。お子様から高齢の方まで多くの皆様に喜んでいただき、予想を大きく上回る早さで用意した数量に達し配布が終了しました。

また、来場された方々にプレゼントした「縄文オリジナルティッシュ」は、ポップで可愛い見た目と斬新なキューブ型の形状が大好評。これまで縄文文化に関心が高かったという方々にも興味を持っていただき、新規縄文ファンを獲得に一役買いました。

今年も大盛況の内に幕を閉じた縄文夏まつり。ご協力いただいた皆様、そして会場に足を運んでいただいた皆様、本当にありがとうございました。

初お披露目「縄文トランス プロジェクション」

今回のイベントの目玉の一つ、北翔大学芸術学科小室研究室制作のメディア・アート作品「縄文トランスプロジェクション」が初披露されました。

パネルの2列配置により奥行き感を演出した巧みな映像表現と、芸術学科生の自由な発想で創作された「アメコミ風縄文土偶ヒーロー」の圧倒的存在感に、多くの通行される方々が思わず足を止めていました。

「縄文×芸術×デジタル」という、これまでにない新たなアプローチで縄文文化の魅力を表現した本作品。今後も、縄文文化の素晴らしさを幅広く伝えてくれることを期待します。



当日展示した土偶

重要文化財「鼻曲土面」
(岩手県一戸町)

顔全体がゆがんだ表情をした土面。見る角度によって苦悶の表情、陶酔した表情、滑稽な表情など様々な印象を与える。



重要文化財「土面」
(秋田県能代市)

閉じた目や眉の表現は遮光器(しゃこうき)土偶に似ており、左目の部分は意図的に壊された可能性がある。額の両端には穴があけられており、この穴に紐をとおして柱などにくくりつけたか、あるいは人の額に当てて使用されたと考えられる。



札幌市指定有形文化財「土偶」(札幌市西区)

手足の表現がなく、体を布等に包んで埋葬した様子を表現したとも考えられる板状の土偶。お墓の上から破片がまとまって出土したことから、意図的に壊して置いたものと推測される。



国宝「中空土偶」(函館市)

中が空洞につくられた「中空土偶」としては国内最大。ほぼ完形で、造形的にも優れていることから、1979年に重要文化財に指定され、その後2007年6月に北海道初の国宝に指定された。愛称は、南茅部の「茅」と中空の「空」で「カックウ」。



重要文化財「土面」
(千歳市)

無表情の顔は死者の特徴を表現したものとされる。縄文時代晩期につくられた土製品で、縄文人の顔立ちがよく表現され、飾り付け用の穴や顔に装着するための紐を通す穴があいている。

